



MailBase

【Notes Option】

第9版



改版履歴

版	改版日付	改版内容
第2版	2014/03/13	動作環境に「Domino R9.0.1」を追記
第3版	2015/07/15	「1-1-2. 動作環境」に「Windows Server 2012」を追記
		「1-2. 導入手順」の(8)に「すべてのサーバ文書に対して、「ジャーナルの受信者」を有効にする必要があります。」を追記
		「2-2. スケジュール設定」の設定方法に Windows 2003 用と Windows 2008・2012 用を追記
第4版	2016/02/15	Notes To MailBase V9.0 へのバージョンアップに伴う修正
第5版	2016/12/13	「1-5-4. その他の制限事項」に「対応していないメールタイプについて」を追記
		「1-3-3. (2) 環境設定文書入力」に「Domino ジャーナルヘッダーの削除をしない場合」の内容を更新
第6版	2017/07/31	「1-5-4.その他の制限事項」に「添付ファイルの変換について」を追記
		Windows Sever 2003 をサポート対象から削除
第7版	2018/11/22	「2-1.転送エージェントの設定」 ・mbtransc.exe のオプションにタイムアウト値を追加。 ・mbtransd の再起動方法を修正。
		「2-2.スケジュール設定」の mbtransc.exe のオプションにタイムアウト値を追加。
第8版	2018/12//27	「1-5-4.その他の制限事項」に「Notes スクリプトの Send メソッドで自動送信されたメールの変換について」を追加。
		「2-1.転送エージェントの設定」 ・mbtransc.exe のオプションに暗号化通信の設定を追加
		「2-2.スケジュール設定」の mbtransc.exe のオプションに暗号化通信の設定を追加
第9版	2019/09/24	「2-1.転送エージェントの設定」と「2-2-1. 転送 Windows2008 2012 の設定」(3) タスクの繰り返し設定に転送受信サービスの実行コマンドのパラメータを追記

目 次

1.	Notes 対応エージェント	1
1-1.	システム概要	1
1-1-1.	目的	1
1-1-2.	動作環境	1
1-1-3.	システム構成	1
1-1-4.	メールファイル変換処理	2
1-2.	導入手順	3
1-3.	ユーザーインターフェース	11
1-3-1.	NotesToMailBase	11
1-3-2.	MailBaseLog.nsf.....	20
1-3-3.	MailBaseLogA.nsf.....	24
1-4.	エラー発生時のログについて	27
1-4-1.	ログ DB (log.nsf)への書出し	27
1-4-2.	ログファイルへの書出し	27
1-5.	制限事項	29
1-5-1.	ジャーナル DB の設定について	29
1-5-2.	ジャーナル DB の「リッチテキスト優先」指定による制限事項 30	
1-5-3.	変換ツールにおける制限事項	30
1-5-4.	その他の制限事項	33
1-6.	アップグレード手順について	36
2.	メール転送設定	39
2-1.	転送エージェントの設定	39
2-2.	スケジュール設定	41
2-2-1.	Windows 2008・2012 における設定方法	41
3.	認証設定	46
3-1.	POP3 認証.....	46
3-2.	LDAP 認証.....	46
3-2-1.	Domino の設定	46
3-2-2.	LDAP 認証.....	46

本文中に記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

本文中では、TM や®などの記号は使用しておりません

1. Notes 対応エージェント

1-1. システム概要

1-1-1. 目的

Notes のメール文書を、Notes のジャーナリング機能を利用し MailBase にアーカイブするためのメールファイルを作成し、指定されたフォルダに出力することを目的としたツールです。

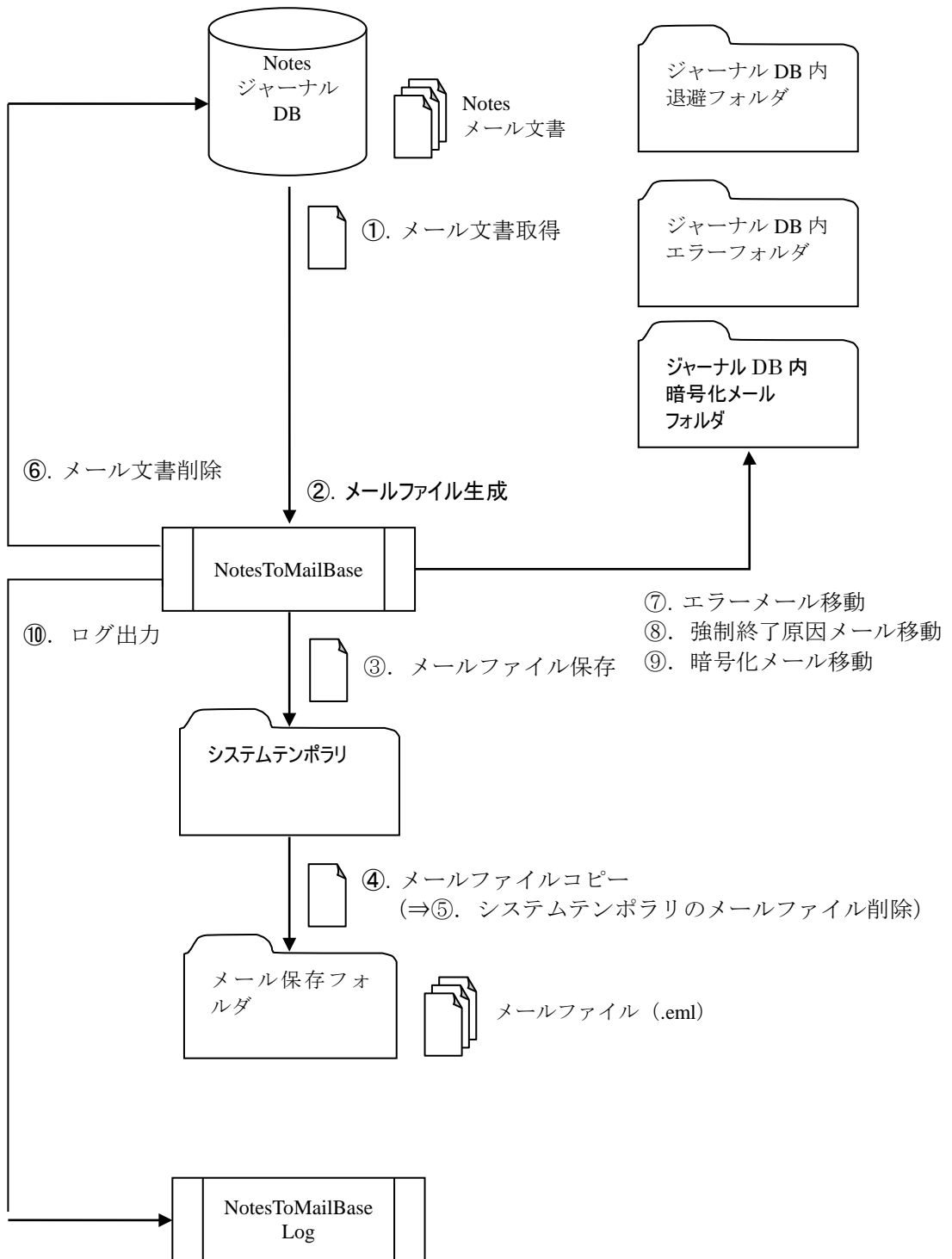
1-1-2. 動作環境

Domino	8.5	(詳細に関しては弊社にお問い合わせください)
	9.0.1	
OS	Windows Server 2008	
	Windows Server 2012	

1-1-3. システム構成

	ファイル名称	説明
1	NotesToMailBase.nsf	変換処理を実行する NotesDB
2	StyleSheet.xsl	データ変換で使用する XSL スタイルシートファイル(ISO-2022-JP エンコード用)
3	StyleSheetUTF8.xsl	データ変換で使用する XSL スタイルシートファイル(UTF-8 エンコード用)
4	MailBaseLog.nsf	NotesToMailBase の変換ログ及び統計情報を格納する NotesDB
5	MailBaseLogA.nsf	NotesToMailBase の変換ログのバックアップ用の NotesDB
6	mbtransc.exe	変換後メールを MailBase サーバへ転送するモジュール

1-1-4. メールファイル変換処理



- ① 指定されたジャーナル DB からメール文書を取得します。
- ② メール文書のデータを取得し、メールファイル (eml) を生成します。
※メールファイル生成に失敗した場合、⑦の処理を行います。
※強制終了原因メールと判断された場合、⑧の処理を行います。
- ③ 指定されたシステムテンポラリにメールファイルを保存します。
- ④ システムテンポラリへのメールファイル保存が完了したら、指定された保存フォルダにメールファイルをコピーします。
- ⑤ コピーが完了したら、システムテンポラリのメールファイルを削除します。
- ⑥ ジャーナル DB のメール文書を削除します。以降、ジャーナル DB より次のメール文書を取得し、①から処理を繰り返します。
- ⑦ 変換に失敗したメールはジャーナル DB 内のエラーフォルダに移動します。
(受信ボックスのメール文書は削除されます)
- ⑧ 強制終了の原因となったメールはジャーナル DB 内の退避フォルダに移動します。
(受信ボックスのメール文書は削除されます)
- ⑨ 暗号化メールの場合、環境設定文書の設定により、ジャーナル DB 内の「暗号化メールフォルダ」に移動します。
- ⑩ 変換結果を専用のログ DB / ログファイルに出力します。以降、ジャーナル DB より次のメール文書を取得し、①から処理を繰り返します。

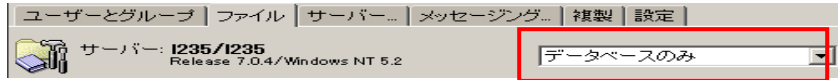
1-2. 導入手順

(1) NotesToMailBase.nsf をサーバーに設置

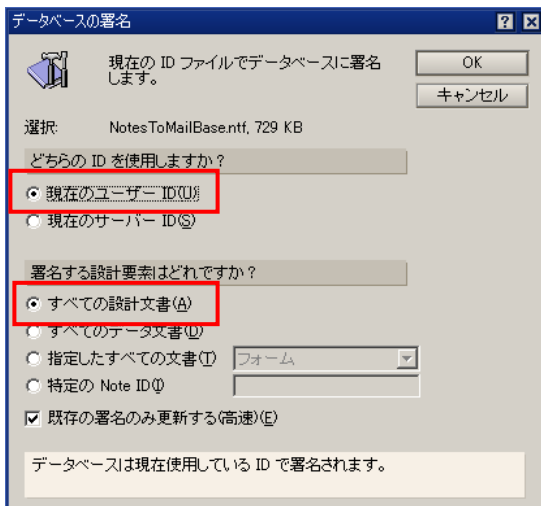
Domino Administrator を使用し、テンプレートファイル (NotesToMailBase.ntf) を基にして NotesToMailBase.nsf を作成し、起動する Domino サーバーの Data ディレクトリに作成する NotesToMailBase.nsf ファイルを保存します。

1. テンプレートファイル (NotesToMailBase.ntf) を Data ディレクトリにコピーします。
2. Domino Administrator を起動し、サーバーの管理者 ID でログインします。

- Domino Administrator メニューで「ファイル」→「サーバーを開く」から導入する Domino サーバーを開きます。
- ファイルタグを選び、表示内容を「データベースのみ」に変更します。

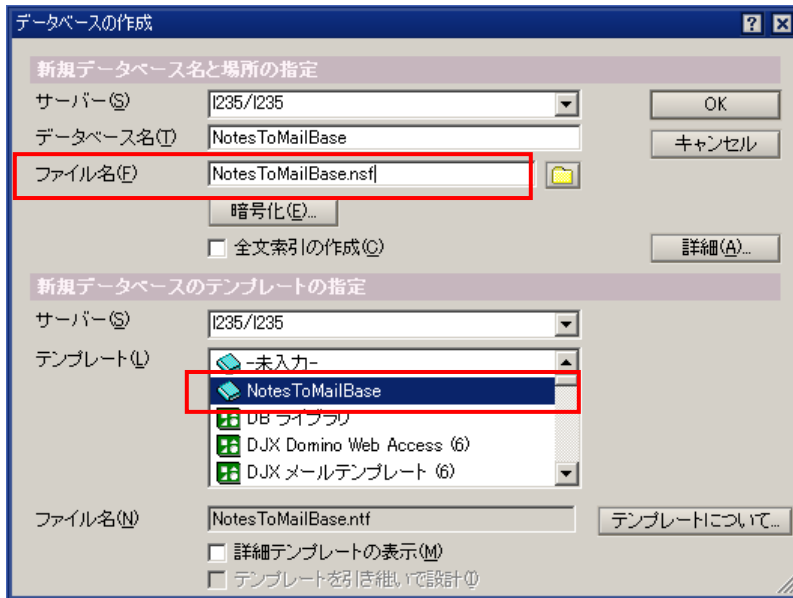


- コピーしたテンプレートファイル (NotesToMailBase.ntf) を選び、「ファイル操作」→「署名」を選択し、テンプレートに対して署名します。
このとき、選択欄では、ID は「現在のユーザーID」を、署名する設計要素は「すべての設計文書」を指定します。



- Domino Administrator メニューで「ファイル」→「データベース」→「作成」を選択します。
- ファイル名を NotesToMailBase.nsf とし、テンプレートに上記で設定した NotesToMailBase.ntf を選び、データベースを作成します。

注：以下に記述する変換ログファイル (MailBaseLog.nsf) および変換ログバックアップファイル (MailBaseLogA.nsf) と同じフォルダにコピーする必要があります。



※ NotesToMailBase および ジャーナル DB のアクセス制御の設定は、「ユーザー」「サーバ」とともに「管理者」を設定してください。

- Domino Administrator メニューで「設定」→「サーバー」→「現在のサーバー文書」→「セキュリティ」を選択し、サーバーの編集で実行権限を設定します。
「制限なしで実行」を設定し、署名ユーザーと同一の実行ユーザーID を設定してください。
また、当ユーザーで、ジャーナル DB へアクセス権（参照・更新）が必要です。



(2) 変換ログファイルおよび変換ログバックアップファイルのサーバへの設置

Domino Administrator を使用し、NotesToMailBase の変換ログファイル (MailBaseLog.ntf) および変換ログバックアップファイル (MailBaseLogA.ntf) を NotesToMailBase エージェントが起動する Domino サーバの Data ディレクトリに保存します。

1. 変換ログファイル (MailBaseLog.ntf) および変換ログバックアップファイル (MailBaseLogA.ntf) を Data フォルダにコピーします。

注：NotesToMailBase.nsf と同じフォルダに存在する必要があります。

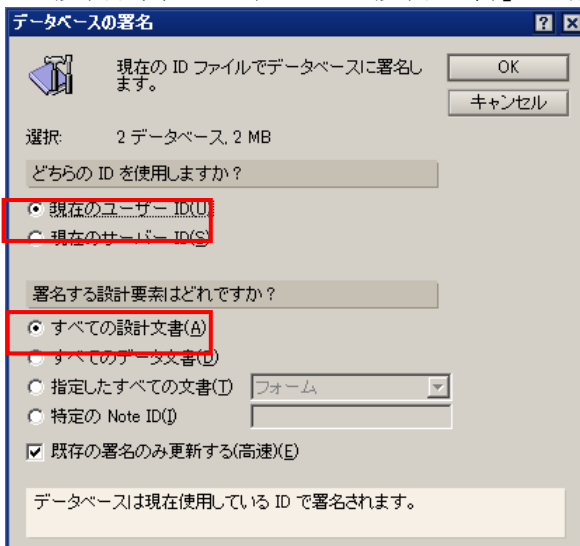
2. Domino Administrator を起動し、サーバーの管理者 ID でログインします。
3. Domino Administrator メニューで「ファイル」→「サーバーを開く」から導入する Domino サーバを開きます。
4. ファイルタグを選び、表示内容を「データベースのみ」に変更します。



5. コピーした変換ログファイル (MailBaseLog.ntf) および変換ログバックアップファイル

(MailBaseLogA.ntf) を選び、「ファイル操作」→「署名」を選択し、NotesDB ファイルに対して署名します。

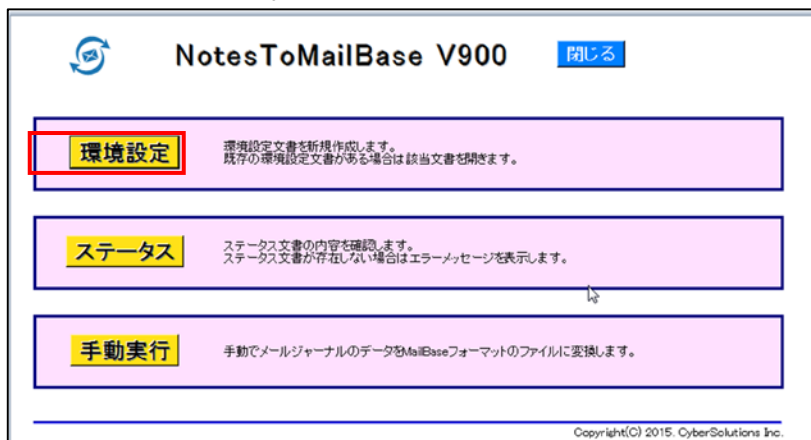
このとき、選択欄では、ID は「現在のユーザー ID」を、署名する設計要素は「すべての設計文書」を指定します。



6. Domino Administrator メニューで「ファイル」→「データベース」→「作成」を選択します。
 7. ファイル名を MailBaseLog.nsf とし、テンプレートに上記で設定した MailBaseLog.ntf を選び、データベースを作成します。
注：前に作成した NotesToMailBase.nsf および、以下に記述する変換ログバックアップファイル（MailBaseLogA.nsf）と同じフォルダにコピーする必要があります。
 8. Domino Administrator メニューで「ファイル」→「データベース」→「作成」を選択します。
 9. ファイル名を MailBaseLogA.nsf とし、テンプレートに上記で設定した MailBaseLogA.ntf を選び、データベースを作成します。
注：前に作成した NotesToMailBase.nsf および、変換ログファイル（MailBaseLog.nsf）と同じフォルダにコピーする必要があります。
- (3) スタイルシートを任意のディレクトリに保存
スタイルシートを任意のフォルダに保存します。
※StyleSheet.xsl、StyleSheetUTF8.xsl は同じディレクトリに格納する必要があります。

(4) NotesToMailBase の環境設定文書を作成

1. NotesToMailBase を開き、メインメニューの[環境設定]ボタンをクリックします。



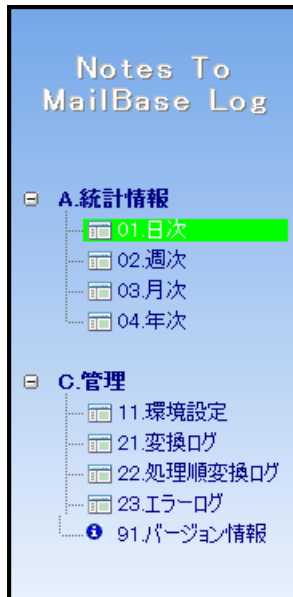
2. 環境設定文書が開きます。
3. [編集する]ボタンをクリックします。
4. 入力項目を記入します。
※詳細は「1-3.ユーザーインターフェース」参照

5. [保存する]ボタンをクリックします。
6. 環境設定文書が閉じ、設定が有効になります。

(5) 変換ログファイルの環境設定文書を作成

変換ログファイルの環境設定文書を作成します。

1. MailBaseLog.nsf を開き、左メニューの[環境設定]のリンクをクリックします。

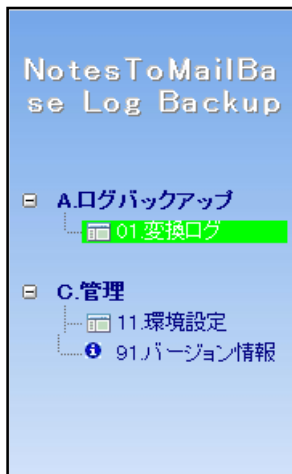


2. 環境設定ビューが表示されるので、[環境設定文書の編集]ボタンをクリックします。
3. 環境設定文書が編集モードで表示されます。
4. 入力項目を記入します。 ※詳細は「1-3.ユーザーインターフェース」参照
5. [保存する]ボタンをクリックします。
6. 環境設定文書が閉じ、設定が有効になります。

(6) 変換ログバックアップファイルの環境設定文書を作成

変換ログバックアップファイルの環境設定文書を作成します。

1. MailBaseLogA.nsf を開き、左メニューの[環境設定]のリンクをクリックします。



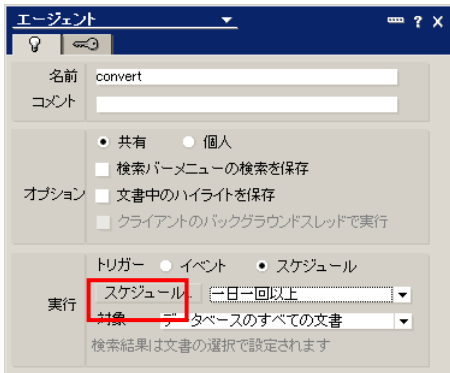
2. 環境設定ビューが表示されるので、[環境設定文書の編集]ボタンをクリックします。
3. 環境設定文書が編集モードで表示されます。
4. 入力項目を記入します。 ※詳細は「1-3.ユーザーインターフェース」参照
5. [保存する]ボタンをクリックします。
6. 環境設定文書が閉じ、設定が有効になります。

(7) 各エージェントのスケジュールを設定

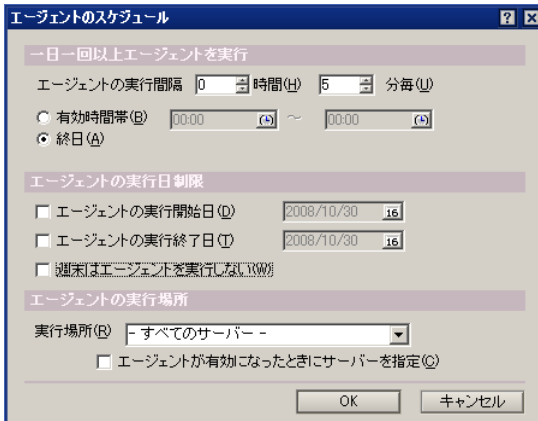
NotesToMailBase の各エージェントのスケジュールを設定します。
 スケジュール推奨設定値は御社・Domino サーバー環境により、適宜変更願います。

項番	NotesDB 名	エージェント名／機能	スケジュール推奨設定値
1	NotesToMailBase.nsf	convert メール変換処理	5 分毎
2	MailBaseLog.nsf	CreateSTInfoAnnoul 統計情報年次処理	毎月 1 日 4 時
3		CreateSTInfoDaily 統計情報日時処理	1 時間毎
4		CreateSTInfoMonthly 統計情報月次処理	毎日 1 時
5		CreateSTInfoWeekly 統計情報週次処理	毎週日曜日 2 時
6	MailBaseLogA.nsf	DeleteLogBackup 変換ログバックアップ処理	毎日 1 時

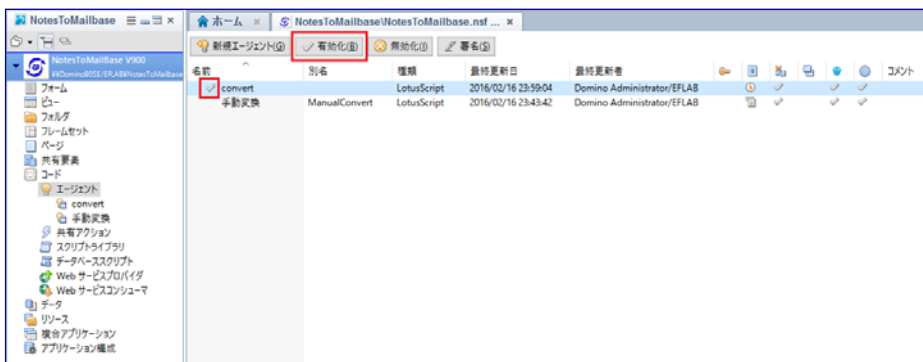
1. Lotus Domino Designer を開きます。
2. 各 NotesDB のエージェント一覧より、上記エージェントを選択します。
3. エージェントのプロパティを開きます。



4. エージェントのスケジュールの設定を行います。



5. 設定後、[有効]ボタンをクリックすると、スケジュールが有効になります。



(8) Domino サーバー設定 (ジャーナルの受信者) を設定

NotesToMailBase のグループアドレスを展開する機能を利用する場合は Domino サーバーのジャーナル受信者展開機能を利用するため、下記の設定が必要となります。

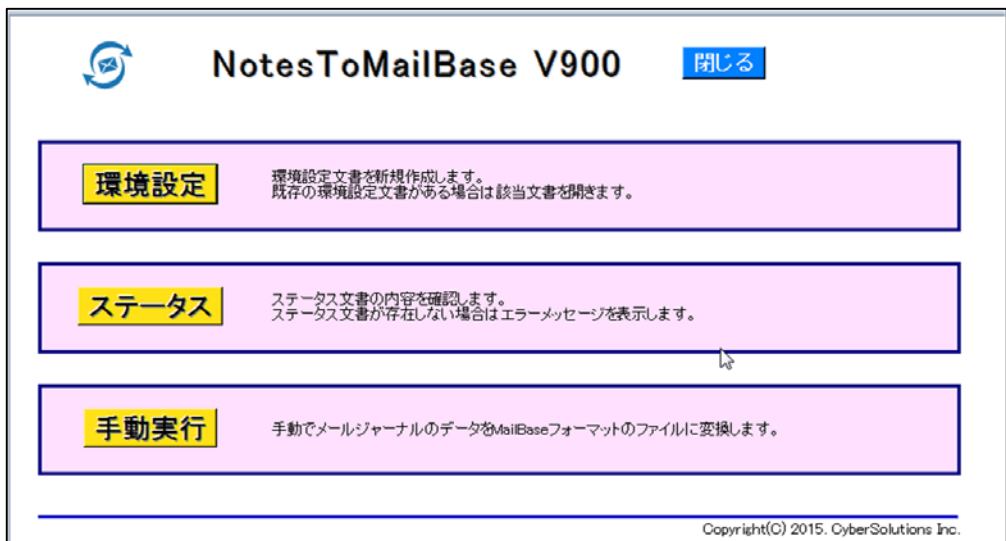
※Lotus Domino 8.x 以降では、サーバー設定文書に新たに追加されたフィールドを利用します。サーバー設定文書の [ルーター/SMTP] - [詳細] - [ジャーナル] タブの [ジャーナルの受信者] フィールドにて、上記機能の有効/無効を切り替えます。

※すべてのサーバー文書に対して、[ジャーナルの受信者]を有効にする必要があります。

1-3. ユーザーインターフェース

1-3-1. NotesToMailBase

(1) メイン画面



	ボタン名	処理内容	備考
1	閉じる	メイン画面を閉じます。	
2	環境設定	環境設定文書を新規作成します。既存の環境設定文書がある場合は、該当文書を開きます。	
3	ステータス	ステータス文書の内容を確認します。	
4	手動実行	手動実行でジャーナルメールを MailBase フォーマットのファイルに変換します。	手動実行を実施する場合は、処理自体はサーバーにて実行されますが、

	ボタン名	処理内容	備考
			<p>処理を実行したクライアントに対して負荷がかかるため、大量文書の処理には向きません。</p> <p>※大量文書の変換処理は、定期エージェントにて実行してください。</p>

(2) 環境設定文書入力画面

環境設定画面（タブ：ジャーナル DB 関連）

	入力項目	処理内容	備考
1	ジャーナル DB サーバー名	ジャーナル DB が存在する Domino サーバー名	入力必須
2	ジャーナル DB ファイルパス名	ジャーナル DB のファイルパス名	入力必須

環境設定画面（タブ：エラーチェック関連）

	入力項目	処理内容	備考
1	変換行数(最大値)	1 メール本文の最大行数を指定します。超えた場合は変換エラーとなります。 "0"、または指定しない場合、行数チェックは行いません。	本システムは、行数が多いメールに対して変換処理を行った場合変換に時間がかかる場合があります。ここでは変換処理の実行対象とするメールに含まれる行数の上限値を設定してください。 設定されていない場合は行数チェックを行いません。
2	添付ファイルサイズ(最大値)	1 メール内の最大ファイルサイズ（複数ファイルは合計）を指定します。超えた場合は変換エラーとなります。 "0"、または指定しない場合、チェックは行いません。	
3	エラーフォルダ名	上記チェックエラー発生時やアーカイブ時にエラーとなったメール文書を格納するフォルダ名を入力します。 フォルダは、ジャーナル DB に作成されます。	入力必須
4	連続強制終了回数しきい値	"3"- "10"の値を選択します。連続強制終了が選択した値になると、検知対象となります。	入力必須
5	連続強制終了検知ログ出力	"する"：上記しきい値を超えた場合、エラーログを出力します。 "しない"：エラーログを出力しません。	入力必須
6	エラーメール通知先	連続強制終了検知ログ出力の値が"する"の時有効になります。通知先の宛先を入力します。	
7	退避フォルダ名	連続強制終了機能より検知され、	入力必須

入力項目	処理内容	備考
	連続強制終了を誘因するメール文書を格納するフォルダ名を入力します。 格納されたメールは変換から除外されます。	

※グループアドレスの展開時に Domino Directory を参照します。

Domino Directory から正しくアドレスが引けない場合は Notes アカウントのまま、出力されるケースがあります。

また、グループアドレスの中にグループアドレスが定義されている場合、そのグループアドレス自体の検索は行えません。

※Domino ジャーナルヘッダーの削除をしない場合(メールヘッダに以下の Recipients フィールドが残っている場合) MailBase 結果画面からの転送が正しく行えないケースがあります。

X-Notes-Item: RemoteJournal (ジャーナル先の DB) ;
name=Recipients

環境設定画面 (タブ : メール変換関連)

保存する
キャンセル

NotesToMailBase ー環境設定ー

「」のついた項目は、入力必須項目です。

ジャーナルDB関連 |
 エラーチェック関連 |
 メール変換関連 |
 eml出力関連 |
 ログ関連

説明

*暗号化メールの処理	『アーカイブする』▼
*暗号化メールの保存	『暗号化メールフォルダに移動する』▼
*暗号化メールフォルダ名	『SecF』
*グループアドレスの展開	『展開する』▼
*重複アドレスの削除	『重複アドレスは削除する』▼
*ディレクトリアシスタントによる検索	『利用しない』▼
*Domino ジャーナルヘッダーの削除	『削除しない』▼

	入力項目	処理内容	備考
1	暗号化メールの処理	"アーカイブする": 暗号化されているメールをアーカイ	入力必須

	入力項目	処理内容	備考
		ブします。ただし、暗号化されているフィールドはアーカイブされません。 "アーカイブしない": 暗号化されているメールはアーカイブしません。	
2	暗号化メールの保存	" 暗号化メールフォルダに移動する": 暗号化されているメールは暗号化メールフォルダに移動します。 " 削除する": 暗号化メールはジャーナル DB から削除します。暗号化メールの処理の値が"アーカイブする "の時有効になります。	入力必須
3	暗号化メールフォルダ名	暗号化メールの保存の値が"暗号化メールフォルダに移動する "の時有効になります。 暗号化メールを格納するフォルダ名を入力します。 フォルダはジャーナル DB に作成されます。	入力必須
4	グループアドレスの展開	"展開する": Domino Directory のジャーナリングの設定でジャーナルの受信者の値が"有効"の時グループアドレスを展開して、個々の受信者のアドレスを eml に出力します。 "展開しない": グループアドレスを展開しません。	入力必須
5	重複アドレスの削除	グループアドレスの展開の値が"展開する"の時有効になります。 "重複アドレスは削除する": 展開したグループアドレスの中に同じアドレスがある場合、重複分は削除して出力します。	入力必須

	入力項目	処理内容	備考
		"重複アドレスは削除しない" : 展開したグループアドレスの中に同じアドレスがあってもそのまま出力します。	
6	ディレクトリアシスタントによる検索	グループアドレスの展開の値が"展開する"の時有効になります。 "利用する": グループアドレスを展開する際にディレクトリアシスタントを利用します。Domino Directory にディレクトリアシスタントが設定されている必要があります。 "利用しない": グループアドレスを展開する際にディレクトリアシスタントを利用せずに Domino Directory を利用します。	入力必須
7	Domino ジャーナルヘッダの削除	"削除する": eml に出力する際、Domino ジャーナルヘッダを削除します。 "削除しない": eml に出力する際、Domino ジャーナルヘッダを削除しません。	入力必須

環境設定画面 (タブ: eml 出力関連)

保存する
キャンセル

NotesToMailBase ー 環境設定 ー

「」のついた項目は、入力必須項目です。

ジャーナルDB関連 | エラーチェック関連 | メール変換関連 | **eml出力関連** | ログ関連

説明

*メールのエンコード形式	『UTF-8』		
プリフィクス	『V900Dev_』		
*メールファイル出力先フォルダ	『C:\NTMB1\Output_』		
*システムテンポラリ (ファイルの一時保存場所)	『C:\NTMB1\Temp_』		
*スタイルシートファイルパス名	『C:\NTMB1\Sty_』	スタイルシートファイル名	StyleSheetUTF8.xsl

	入力項目	処理内容	備考
1	メールのエンコード形式	”ISO-2022-JP”：出力する eml ファイルを ISO-2022-JP 形式でエンコードします。 ”UTF-8”：出力する eml ファイルを UTF-8 形式でエンコードします。	入力必須
2	プリフィクス	出力する eml ファイル名の頭につける文字列を入力してください。	
3	メールファイル出力先フォルダ	eml ファイルの出力先フォルダ名を入力してください。	入力必須
4	システムテンポラリ	eml ファイルの一時出力先フォルダ名を入力してください。 ただし、メールファイル出力先フォルダ名とは別のフォルダ名を入力してください。	入力必須
5	スタイルシートファイルパス名	スタイルシートファイルを保存したフォルダ名を入力してください。 ただし、メールファイル出力先フォルダやシステムテンポラリとは別のフォルダ名を入力してください。	入力必須
6	スタイルシートファイル名	”メールのエンコード形式”の値により自動で設定されます。	入力必須

※指定するフォルダはあらかじめ作成しておく必要があります。指定されたフォルダが存在しない場合、処理が実行されません。
環境設定画面にエラーがある場合は、環境設定画面で指定したログフォル及びコンソールにその旨メッセージが出力されます。
また、メールファイル出力先フォルダにはメール以外のファイルを置かないで下さい。

環境設定画面（タブ：ログ関連）

保存する キャンセル

NotesToMailBase —環境設定—

「」のついた項目は、入力必須項目です。

ジャーナルDB関連 | エラーチェック関連 | メール変換関連 | eml出力関連 | ログ関連

説明	
ログ出力レベル	<input checked="" type="checkbox"/> 通常メッセージ <input checked="" type="checkbox"/> エラーメッセージ
*ログ出力先	<input checked="" type="checkbox"/> Notes DB <input checked="" type="checkbox"/> テキストファイル
*ログDBファイルパス名	NTMB#MailBaseLog.nsf
*ログファイル出力先フォルダ	『C:#NTMB1#Log』

	入力項目	処理内容	備考
1	ログ出力レベル	"通常メッセージ"：変換ログ（eml出力）を出力します。 "エラーメッセージ"：エラーログを出力します。	
2	ログ出力先	ログ出力先レベルの値が選択されている時有効になります。 "Notes DB"：ログの出力先をNotes DBにします。 "テキストファイル"：ログの出力先をテキストファイルにします。	入力必須
3	ログDBファイルパス名	ログ出力先の値が"Notes DB"の時有効になります。	入力必須
4	ログファイル出力先フォルダ	ログ出力先の値が"テキスト"の時有効になります。	入力必須

(3) ステータス画面

ステータス文書は、通常お客様が使用することはありません。

本文書は、NotesToMailBaseで障害等が発生し、サーバダウンした際に、その時の状態を記憶している文書です。

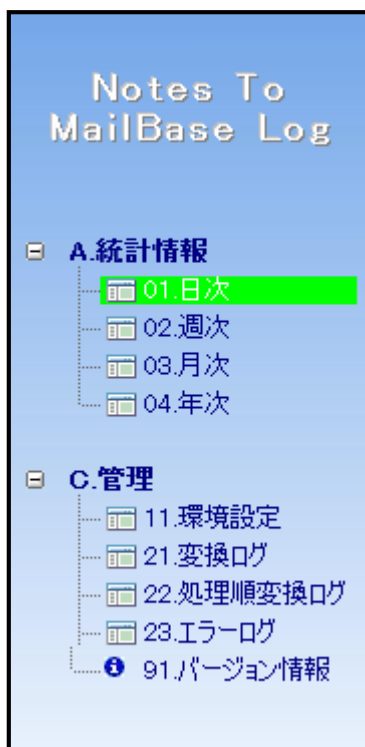
NotesToMailBase ステータス	
強制終了連続回数	0
実行ステータスフラグ	9
現在処理文書UNID	
退避件数	0
退避文書UNID	,
ダウン判定フラグ	,

NotesToMailBase V900
Copyright(C) 2015. CyberSolutions Inc.

	入力項目	内容
1	強制終了回数	エージェントが、連続で強制終了した回数が、設定されます。 1回でもエージェントが正常に終了した場合、クリアされます。
2	実行ステータスフラグ	エージェントが起動されると"1"が設定され、エージェントが正常に終了すると"9"が設定されます。 サーバダウンやエージェントが強制終了すると、"1"の状態になります。
3	現在処理文書UNID	エージェントが変換処理を行っている、メール文書 ID が都度格納されます。 問題が発生した場合、本文書 ID のメールが原因になっている可能性があります。
4	退避件数	エージェントが強制終了した時の、文書が格納された件数です。通常強制終了した直後は、"1"が設定されます。 正常に終了した場合は、"0"が格納されます。
5	退避文書 UNID	エージェントが強制終了した時の、メール文書 UNID が格納されます。 通常、本文書は、強制終了で仕掛のメール文書の為、次のエージェント実行時に処理が行われクリアされます。
6	ダウン判定フラグ	同一メール文書で2回エージェントが強制終了した場合、本メールは3回目のエージェント実行時に、削除フラグが設定され、対象メールは変換から除外され次のメール変換が行われます。 本フラグは内部で瞬間的に設定される為、通常ではクリアされた状態で保存されています。

1-3-2. MailBaseLog.nsf

(1) メイン画面



	ボタン名	処理内容	備考
1	01.日次	日次統計情報を表示します	
2	02.週次	週次統計情報を表示します	
3	03.月次	月次統計情報を表示します	
4	04.年次	年次統計情報を表示します	
5	11.環境設定	環境設定画面を開きます	
6	21.変換ログ	変換ログ画面を開きます	
7	22.処理順変換ログ	メール変換処理順の変換ログ画面を開きます	
8	23.エラーログ	エラーログ画面を開きます	
9	91.バージョン情報	当 NotesDB のバージョン情報を表示します	

(2) 統計情報一覧画面

統計期間	正常文書 件数	正常文書サイズ (KB)	エラー文書 件数	エラー文書サイズ (KB)	暗号文書 件数	暗号文書サイズ (KB)	合計文書 件数	合計文書サイズ (KB)
▶ 2010/04/12	1	0.8	0	0.0	0	0.0	1	0.8
▶ 2010/04/13	0	0.0	0	0.0	1	2,187.9	1	2,187.9
▶ 2010/04/14	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
▶ 2010/04/15	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
▶ 2010/04/16	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
▶ 2010/04/17	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
▶ 2010/04/18	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
▶ 2010/04/19	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
▶ 2010/04/20	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
▶ 2010/04/21	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
▶ 2010/04/22	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
▶ 2010/04/23	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
▶ 2010/04/24	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
▶ 2010/04/25	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
▶ 2010/04/26	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
▶ 2010/04/27	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
▶ 2010/04/28	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	1	0.8	0	0.0	1	2,187.9	2	2,188.7

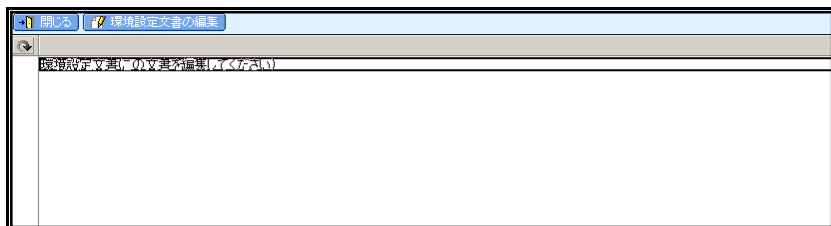
	ボタン名	処理内容	備考
1	閉じる	変換ログファイルを閉じます	
2	古い統計情報の削除	古い統計情報の削除を行います	

(3) 統計情報詳細画面

Notes To MailBase Log - 統計情報 -				
統計情報				
統計情報日付	2010/04/12		統計期間	16:00 ~ 17:00
	正常	エラー	暗号化	合計
処理件数	1	0	0	1
処理文書サイズ (byte)	782	0	0	782
メッセージID情報				
正常処理	<0FE3DD8703.93A254B9-0149257703.00290B1E-49257703.00290F31@LocalDomain>			
エラー				
暗号化メール				
Notes To MailBase Ver 5.00 Copyright(C) 2010, CyberSolutions, Inc.				

	ボタン名	処理内容	備考
1	閉じる	統計情報を閉じます	

(4) 環境設定画面



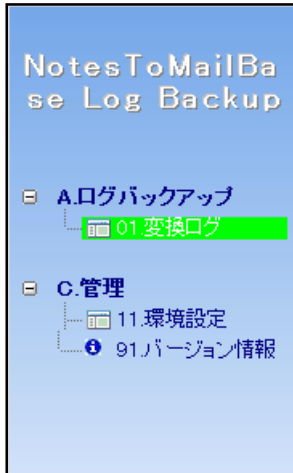
	ボタン名	処理内容	備考
1	閉じる	変換ログファイルを閉じます	
2	環境設定文書の編集	環境設定文書を編集モードで開きます	

(5) 環境設定文書入力画面

	ボタン名	処理内容	備考
1	保存する	環境設定文書を保存します	
2	キャンセルする	環境設定文書を保存せず、閉じます	
3	統計情報出力	統計情報の出力有無	単一選択 する しない
4	メッセージ ID 出力 (日次統計情報)	日次統計情報へのメール文書メッセージ ID の出力有無	単一選択 する しない

1-3-3. MailBaseLogA.nsf

(1) メイン画面



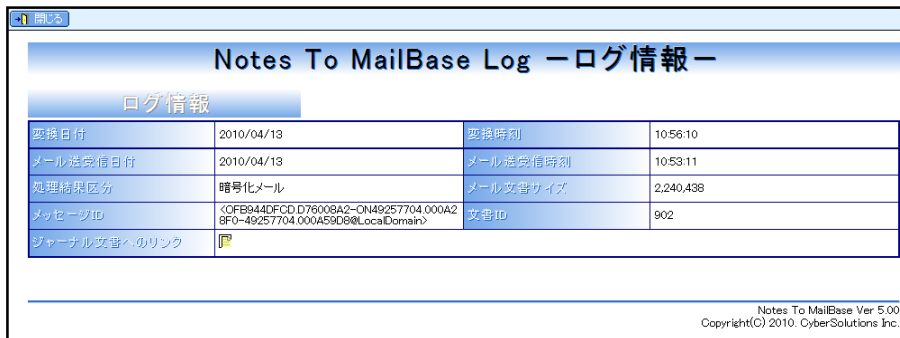
	ボタン名	処理内容	備考
1	01.変換ログ	変換ログ一覧を表示します	
2	11.環境設定	環境設定画面を開きます	
3	91バージョン情報	当 NotesDB のバージョン情報を表示します	


(2) 変換ログ一覧画面

閉じる				
送受信日付	送受信時刻	ログ区分	メッセージID	文書ID
2010/04/12	16:37:28	正常	<OFE8DD8703.93A254B9-ON49257703.0029DB1E-49257703@notes.com>	8FA
2010/04/13	10:53:11	暗号化メール	<OFB944DFCD.D76008A2-ON49257704.000A28F0-49257704@notes.com>	902

	ボタン名	処理内容	備考
1	閉じる	変換ログファイルを閉じます	

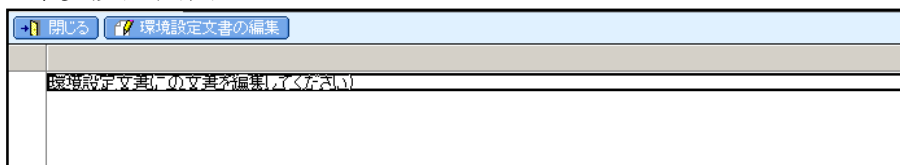
(3) 変換ログ詳細画面



Notes To MailBase Log - ログ情報 -			
ログ情報			
変換日付	2010/04/13	変換時刻	10:56:10
メール送受信日付	2010/04/13	メール送受信時刻	10:53:11
処理結果区分	暗号化メール	メール文書サイズ	2,240,488
メッセージID	<OFB944DFCD.D76008A2-0N49257704.000A28F0-49257704.000A5908@LocaDomain>		文書ID
ジャーナル文書へのリンク			

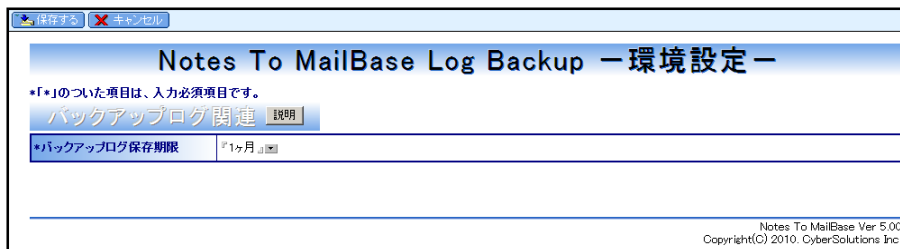
	ボタン名	処理内容	備考
1	閉じる	変換ログファイルを閉じます	
2	ジャーナル文書のリンク	暗号化メール文書を開きます	アクセス権がないメール文書は開きません

(4) 環境設定画面



	ボタン名	処理内容	備考
1	閉じる	変換ログファイルを閉じます	
2	環境設定文書の編集	環境設定文書を編集モードで開きます	

(5) 環境設定文書入力画面



	ボタン名	処理内容	備考
1	保存する	環境設定文書を保存します	
2	キャンセルする	環境設定文書を保存せず、閉じます	

	ボタン名	処理内容	備考
3	バックアップログ 保存期限	バックアップログの保存期限を指定	単一選択 1ヶ月 3ヶ月

1-4. エラー発生時のログについて

1-4-1. ログ DB (log.nsf)への書出し

以下の場合、ログ DB (log.nsf) にメッセージを出力します。

- ・ 環境設定文書が存在しない場合
- ・ ログファイルの書出しに失敗した場合
- ・ ログファイルの出力先が存在しない場合
- ・ スタイルシートのパス名が存在しない場合

1-4-2. ログファイルへの書出し

NotesToMailBase の環境設定文書の設定により、ログファイルにメッセージを出力します。

ログファイルは環境設定文書において指定した出力先に出力します。テキストファイルを指定した場合、指定フォルダ下に実行日付のフォルダ (YYYYMMDD) を作成され、その下に“エラー “、” 暗号化 “、” 正常 “の 3 フォルダが作成され、処理実施日時をファイル名称として出力します。(mnYYYYMMDDHHNN.txt)

- ・ ジャーナル DB に変換対象の文書が存在しない場合
- ・ ジャーナル DB から変換対象の文書を取得できなかった場合
- ・ ジャーナル DB の文書の変換時に失敗した場合
- ・ 暗号化メールを処理した場合
- ・ 正常処理を行った場合

変換処理に失敗した場合、変換処理に失敗した文書ごとに失敗の内容を出力します。

変換に失敗したメール文書には、エラーフラグ : MailBaseErr フィールドに「1」がセットされます。このエラーフラグにより、ジャーナル DB より変換に失敗した文書の検索が可能となります。

また、ジャーナル DB 内のエラーフォルダに移動されます。

変換処理に失敗したメール文書が Domino サーバーの強制終了の原因となった場合、

NotesToMailBase にその文書 UNID が格納されます。

次にこのメール文書を変換した時、再度、Domino サーバーが強制終了となったら、この次の

エージェント実行時にジャーナル DB 内の退避フォルダに移動されます。その際に、該当する文書 UNID のメール文書を退避したということをエラーログとして出力します。

暗号化メールの場合、暗号化メールのアーカイブ有無により変換を行い、変換されたメールはジャーナル DB 内の暗号化フォルダに移動または削除されます。

ジャーナル DB 内の暗号化メールを削除された場合は、変換ログにあるリンクをクリックするとエラーとなります。

1-5. 制限事項

1-5-1. ジャーナル DB の設定について

- 「メール受信データベース」の設定において、「インターネットメールの格納形式」は「Notes リッチテキスト優先」と設定してください。また、「受信メールの暗号化」は「いいえ」と設定してください。

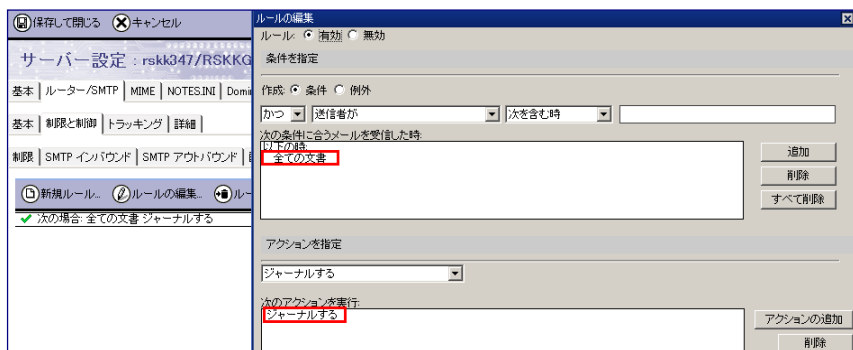
メール受信データベース: Receive Journal	
基本	その他 コメント 管理
基本情報	
メール受信データベース名: 『Receive Journal』	ロケーション
説明: 『』	ドメイン:
インターネットアドレス: 『』	サーバー:
インターネットメール格納形式: 『Notes リッチテキスト優先』	ファイル名:
受信メールの暗号化: 『いいえ』	

- ジャーナル DB の設定において、ジャーナリングの基本情報設定の「方法」は「メール受信データベースへ送信」と設定してください。「ローカルデータベースへコピー」と設定するとメールが暗号化され、変換ツールによる変換ができません。（「1-5-3.変換ツールにおける制限事項 暗号化されたメールについて」参照）

サーバー設定 : rskk347/RSKKGDEVR65	
基本	セキュリティ クライアントのアップグレード ルーター/SMTP MIME NOTES.INI 設定 IBM iNotes IMAP SNMP Activity Logging 診断情報 Social Edition 管理
基本情報	拡張と制御 メールの特記事項 トラッキング メール回収 詳細..
ジャーナリング	コマンドと拡張 制御
基本情報	
ジャーナリング:	『有効』
フィールド暗号化除外リスト:	『Form: From: Principal: PostedDate』
方法:	『メール受信データベースへ送信』
メールの宛先:	『Receive Journal』
ジャーナルの受信者:	『有効』
***確認: ジャーナルを行うには、ジャーナルのアクションが設定されたメールルールが必要です。	

- ジャーナル DB のアクセス制御の設定について
変換ツールが設置されているサーバーを「管理者」として、設定してください。
- ジャーナル DB のルール設定において、「全ての文書」をジャーナルするとしている場合は、ジャーナル DB にすべてのメールがジャーナルされます。
ルール設定において、条件によるジャーナル設定を行った場合、対象となるメールのみがジャーナル DB にジャーナルされます。
なお、変換ツールにおいて、変換の対象となるのは、ジャーナル

DB にジャーナルされているメールのみになります。



- ・ ジャーナル DB のプロパティで「一時的削除を許可」にチェックがついている場合は 変換処理が完了したメール文書は完全削除されません。
削除対象の文書は「ごみ箱」ビューに移動します。
※本変換ツールの使用により、ジャーナル DB の文書は削除されますので、「Notes のジャーナル DB の機能」と「MailBase の機能」を併用することはできません。

1-5-2. ジャーナル DB の「リッチテキスト優先」指定による制限事項

HTML メールについて

HTML メールはジャーナル DB に取り込まれた時点で、色情報がなくなる場合があります。

1-5-3. 変換ツールにおける制限事項

OLE オブジェクトについて

OLE オブジェクトが貼り付けられているメール文書を変換すると、OLE オブジェクトは画像イメージとしてメールファイルに添付されます。

表について

メール文書において作成された以下の表は、「基本的な表」として表示されます。

また、表の固定幅は正確には反映されません。

- ・ タブ付きの表
- ・ アニメーションの表
- ・ タイトルバー付き表
- ・ プログラム可能な表

文字修飾について

メール文書において、以下の文字修飾は変換後のメールファイルには反映されません。

- ・ 影付き
- ・ エンボス
- ・ リスト

呼び出しファイルについて

Notes の仕様により、以下のファイルは呼び出した場合、ファイルを変換することができない場合があります。(画像イメージが表示されません。)

- ・ TIFF5.0

※ノーツクライアントから作成されるリソースイメージについては、変換できません。

暗号化されたメールについて

今回の変換のために使用するジャーナル DB は、変換対象のメールを取得することを目的としており、ジャーナル DB の機能であるメールの暗号化を行うと、メールの変換が不可能となります。

メールの暗号化には特定のユーザーのパブリックキーが用いられ、メール変換を行うサーバーはこのパブリックキーを保持しておらず、復号ができないためです。

また、メール送信の際に個人が暗号化したメール文書についても同様の理由により、復号ができないため、メール変換できません。

暗号化されたメールは、ヘッダーと件名のみ変換されアーカイブされます。

変換対象の文字コードについて

マルチバイト文字はエンコード形式を ISO-2022-JP と UTF-8 から選択できるようになりました。デフォルトは ISO-2022-JP です。

アドレスのドメインについて

Notes アドレスでのメールの送受信が行なわれたメールの場合、送受信者のアドレスに 変換ツールの存在する環境のドメインやサーバーのインターネットドメインが付加されます。

伝言メモについて

Notes で作成可能な伝言メモメールのチェック項目の内容は変換後のメールファイルには反映されません。

変換に失敗したジャーナル DB のメールについて

変換処理時に失敗したメールは、エラーフォルダへ移動されます。

変換に失敗したメールは エラーログが出力されますので、ログより確認できます。(「1.4.2 ログファイルへの書出し」参照)

エラーフォルダの参照はジャーナル DB を Notes クライアントで開き、[表示] →[移動]からエラーフォルダを選択することでエラーフォルダの中身を確認することもできます。

また、変換に失敗したメールにはエラーフラグを立てていますので、ジャーナル DB より検索することも可能です。

ログより変換処理に失敗した内容をご確認の上、手動で削除するなどの対応をいただく必要があります。

なお、変換に失敗したメールは MailBase による検索の対象にはなりません。

DXLExporter operation failed エラーについて

Notes 側の制限により、データが存在するにもかかわらず API からのアクセス時にエラーとなって取得できないメールがあります。この現象が発生した場合には以下のログメッセージが出力されます。

```
GetRichTextAsMimeStringWithDXL DXL exporter operation failed on line
```

また、メール自体はジャーナルにそのまま残存します。

文字の行間について

文字の行間については、正しく反映されない場合があります。

退避フォルダについて

変換処理時に Domino をクラッシュさせるようなメールは、2 回クラッシュすると退避対象になり、3 回目の変換時に、退避フォルダへ移動されます。

退避したメールは、エラーログが出力されますので、ログより確認できます。（「1.4.2 ログファイルへの書き出し」参照）

退避フォルダの参照はジャーナル DB を Notes クライアントで開き、[表示]→[移動]から退避フォルダを選択することで退避フォルダの中身を確認することもできます。

また、変換に失敗したメールにはエラーフラグを立てていますので、ジャーナル DB より検索することも可能です。

ログより退避したメールをご確認の上、手動で削除するなどの対応をいただく必要があります。なお、退避したメールは MailBase による検索の対象にはなりません。

1-5-4. その他の制限事項

インターネットアドレス自動変換について

送信時にインターネットアドレスが取得できなく、ノーツ ID で登録されている場合、NotesToMailBase が動作する環境のアドレス帳にそのノーツ ID が登録されていてもインターネットアドレスが記述されていない、またはノーツ ID 自体の登録がないときは Notes/Domino

のインターネットアドレス自動変換機能によって、インターネットアドレスが自動的に決定されます。
自動変換機能のルールは下記の通りです。

@の前部分

(ユーザーID) % (NotesToMailBase が動作している Domino サーバーのドメイン名)

@の後ろ部分

(NotesToMailBase が動作している Domino サーバーのインターネットドメイン名)

例：ユーザーID TARO YAMADA/Dev/CS

NotesToMailBase が動作している Domino サーバーのドメイン名：

NTMB

NotesToMailbase が動作している Domino サーバーのインターネットドメイン名：cybersolutions.co.jp

自動変換アドレス

TARO YAMADA/Dev/CS%NTMB@cybersolutions.co.jp

インターネットアドレスを持たないユーザーについて

インターネットアドレスを持たないユーザーは MailBase にログインが不可となります。そのユーザーに対する検索権限を持つユーザーにてログインし件名・内容等で検索を行う事のみ可能となります。

グローバルドメイン文書を設定している場合

「グローバルドメイン」を設定している際に、インターネットアドレス検索を無効にしているとノート間のメール時に FROM アドレスがノート ID のままとなってしまう事象が弊社サポートにて確認されております。(デフォルト無効)

グローバルドメインをご利用の際には、インターネットアドレス検索を有効にして頂きますようお願いいたします。

対応していないメールタイプについて

- ・ 開封通知返信要求メール
- ・ 重要フラグ付
- ・ 委譲メール

添付ファイルの変換について

添付ファイルの Notes 文書のプロパティの情報とメールのページソース内の情報に下記のような不整合がある MIME メールの場合、正しく変換されないことがあります。

例：

メールのページソース：Content-Transfer-Encoding: quoted-printable

Notes 文書のプロパティ：Content-Transfer-Encoding: 8bit

Notes スクリプトの Send メソッドで自動送信されたメールの変換について

Notes スクリプトの Send メソッドで自動送信されたメールを eml 形式に変換した場合、メールの左側が切れて表示される場合があります。このような場合、プログラムで送信するメールを作成する際に本文の各行の先頭に" " (全角スペース) を何文字か挿入するとその分が右に寄るため、メーラで参照した時の表示が改善される事を確認しております。

1-6. アップグレード手順について

(1) 事前準備

アップグレード作業にあたり、事前の準備を行います。

- A) 「1-2.導入手順 (1)NotesToMailBase.nsf をサーバーに設置」を参照し、最新版のテンプレートファイル (NotesToMailBase.ntf) に署名します。
- B) 必要に応じ、NotesToMailBase.nsf ファイルおよび転送エージェント (mbtransc.exe) のバックアップを取得します。
- C) 「1-2.導入手順 (2) 変換ログファイルおよび変換ログバックアップファイルのサーバーへの設置」を参照し、変換ログファイル (MailBaseLog.ntf) および変換ログバックアップファイル (MailBaseLogA.ntf) をあらかじめ作成し、設定します。

(2) システム停止

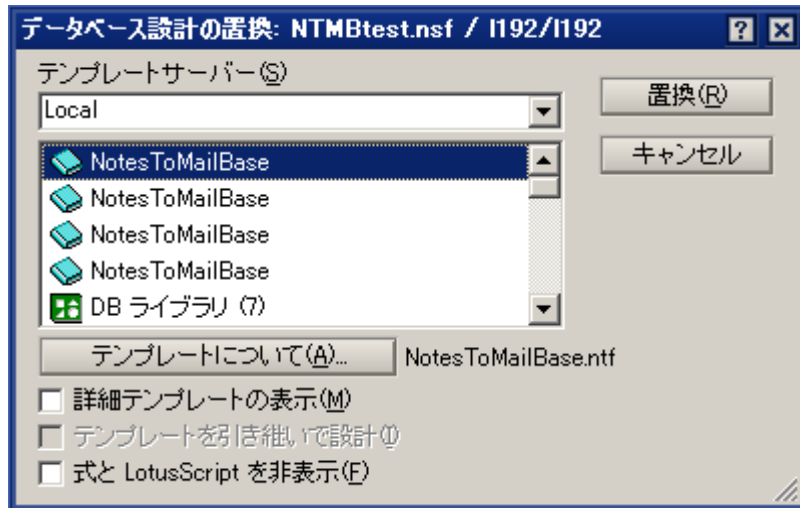
アップグレード作業にあたり、メール変換/転送を停止します。

- A) 「convert」エージェントの無効化
 - ・ Lotus Domino Designer を開きます
 - ・ エージェント一覧より「convert」エージェントを選択します
 - ・ 無効ボタンを押し、エージェントの実行を停止します
- B) 転送エージェントの停止
 - ・ Windows のコントロールパネルからタスクを開きます
 - ・ 転送エージェントタスクのプロパティ画面を開きます
 - ・ タスクタブにある「実行する」のチェックをはずします

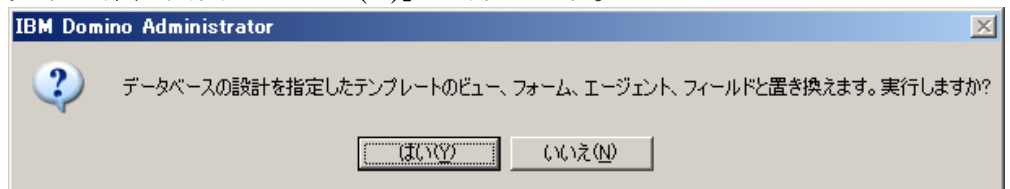
(3) アップグレード作業

アップグレード作業を行います。

- A) NotesToMailBase.nsf の設計置換
 - ・ Domino Administrator を開きます
 - ・ メニューより「ファイル」→「データベース」→「設計の置換」を選択します
 - ・ データベース設計の置換画面で、署名したテンプレートファイルを選択し、置換ボタンを押しします



- 以下の確認画面で「はい(Y)」を押します。



※MailBaseLog.ntf も上記の手順でアップグレード作業を実施します。
※MailBaseLogA.ntf も上記の手順でアップグレード作業を実施します。

- B) 転送エージェントのコピー
 - 転送エージェントのコピーを行います。
- C) 環境設定文書の修正
 - 「1-3-1. NotesToMailBase (2)環境設定文書入力画面」を参照し、環境設定文書を見直して適宜修正します。
- D) スタイルシートのコピー
 - 新しい StyleSheet.xml、StyleSheetUTF8.xml をコピーします。

(4) システム開始

システムを開始するため、メール変換/転送を開始します。

A) 転送エージェントの開始

- ・ Windows のコントロールパネルからタスクを開きます。
- ・ 転送エージェントタスクのプロパティ画面を開きます。
- ・ タスクタブにある「実行する」にチェックします。

B) 「convert」エージェントの有効化

- ・ Lotus Domino Designer を開きます。
- ・ エージェント一覧より「convert」エージェントを選択します。
- ・ 有効ボタンを押し、エージェントの実行を開始します。

2. メール転送設定

2-1. 転送エージェントの設定

(1) 転送エージェントのインストール

転送エージェント (`mbtransc.exe`) をジャーナルサーバの任意のフォルダにコピーします。

`mbtransc.exe` 32 ビット OS 用

`mbtransc64.exe` 64 ビット OS 用

転送エージェントは引数により下記の項目を設定する必要があります。

- MailBase サーバーの IP もしくはドメイン名
 - ポート番号
通常は 5555、マルチサーバー構成で転送受信サーバーへ転送する場合は 5577 を指定します。
 - 転送したいメールのあるフォルダのパス
 - タイムアウト値 (1~1800 単位: 秒)
 - ログファイルのパス
 - 暗号化通信オプション
暗号化通信によるメール転送を行う場合に設定します。
 - c: 暗号化通信によるメール転送を行います。
 - C: 暗号化通信によるメール転送を行い、転送先が暗号化通信に対応していない場合、非暗号化通信へ自動的に切り替えてメールを転送します。
- ※オプションの指定をしない場合は、非暗号化通信によるメール転送を行います。
- ※暗号化通信によるメール転送を行う場合、MailBase が MailBaseV5SP3 の `hotfix_mbv5sp3_180507.tzg` 適用以降で、且つ転送受信モジュールの暗号化設定が有効となっている必要があります。

- ・転送プロセスの起動数(1~256)

転送プロセス数を複数指定する場合は MailBase の以下の設定ファイルの `child`、`lisener` をあわせて設定します。

`/webmail/mbase/etc/mbtransd.conf` (ポート 5555 を使用する場合)

`/webmail/mbase/etc/archive/cluster/mbtransd.conf` (ポート 5577 を使用する場合)

`child` を増やすと `mbtransd` のプロセスが設定値数起動しプロセスが起動している数だけの対応が可能です。また、`lisener` 値を増やすと、`mbtransd` プロセスが接続する先の値が増えるのでこの数だけの受信対応が可能になります。

※MailBase で受信できる最大のファイルサイズはデフォルトで 100MB です。メールサイズを変更する場合は、MailBase の `/webmail/mbase/etc/mbtransd.conf` の `maxfilesize` の値を変更して、`mbtnrasd` を再起動します。

※設定を変更した後は MailBase サーバ側で `mbtransd` を再起動してください。(MailBase サーバの作業)

MailBase サーバ上で以下のコマンドを実行して `mbtransd` を再起動します。

webmail 権限で下記のコマンドを実行します。

```
$ /webmail/mbase/bin/mbase.pl mbtransd restart
```

```
$ /webmail/mbase/bin/mbase.pl mbtransd_cluster restart
```

※タスクスケジュールに設定する際の詳細については次項「2-2. スケジュール設定」を参照して下さい。

2-2. スケジュール設定

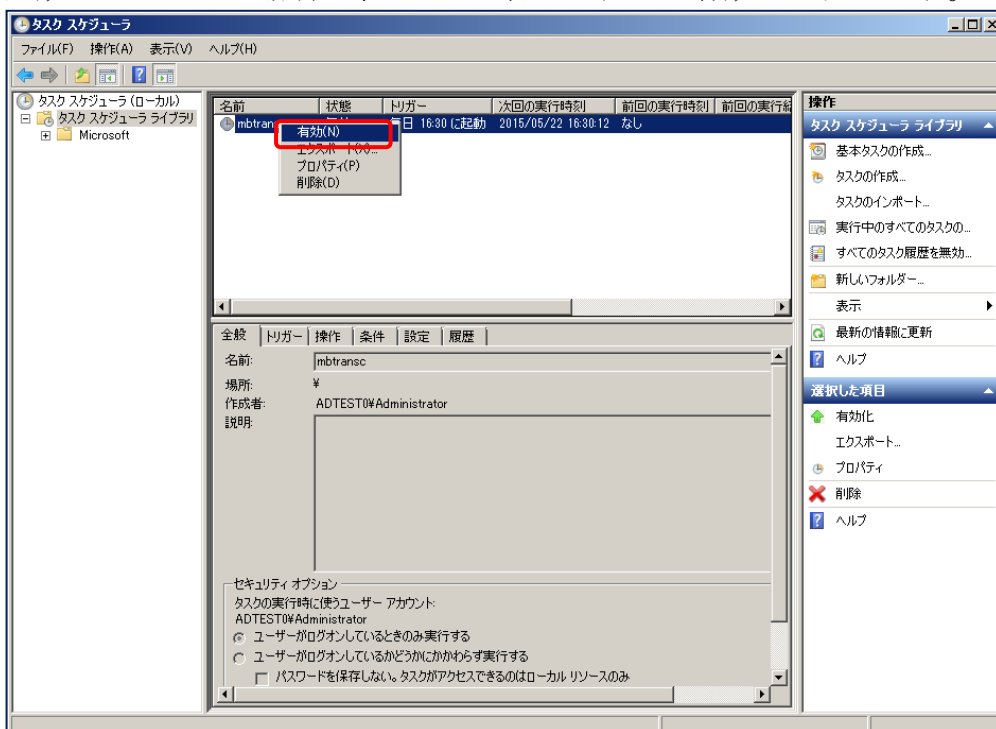
2-2-1. Windows 2008・2012 における設定方法

(1) 必要なサービスの状況確認・変更

[コントロールパネル] の [管理ツール] から [タスクのスケジューラ] を開きます。

一覧で Task Scheduler が準備完了になっているか確認します。

無効になっている場合は、タスクを右クリックし有効を選択します。

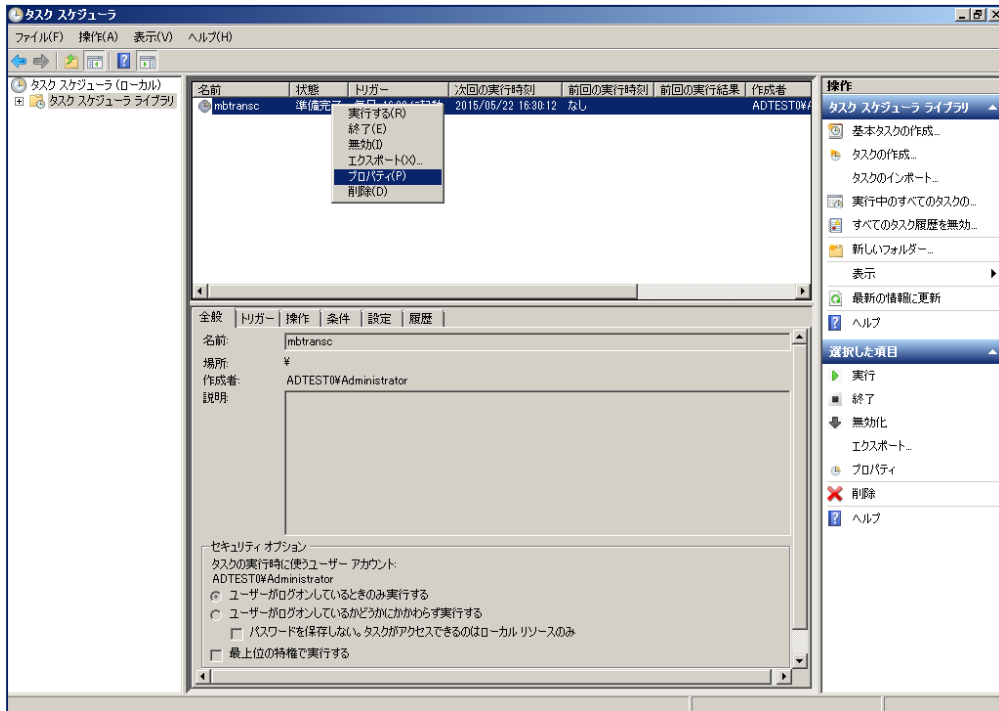


(2) タスクの登録

[コントロールパネル] の [管理ツール] から [タスクのスケジューラ] を開きます。「基本タスクの作成」を選択し、ウィザードの指示に従い mbtransc.exe のスケジュールを設定します。

(3) タスクの繰り返し実行間隔の変更

1. [コントロールパネル] の「タスク」から(2)で登録した mbtransc のタスクのプロパティを開きます。



2. 「タスク」タブの「実行するファイル名(R):」欄を、下記の例を参照して環境に合わせて設定します。

例)

◆64 ビットモジュールの場合

C:¥mbase¥mbtransc64.exe 192.168.1.xxx 5555 E:¥mbase¥mail 60 1 -C
C:¥mbase¥mbtransc.log

◆32 ビットモジュールの場合

C:¥mbase¥mbtransc.exe 192.168.1.xxx 5555 E:¥mbase¥mail 60 1 -C
C:¥mbase¥mbtransc.log

上記の例は、以下の意味となります。

- mbtransc.exe のパス -> C:¥mbase¥mbtransc.exe
- MailBase サーバーの IP -> 192.168.1.xxx
- ポート番号 -> 5555
- 転送したいメールのあるフォルダのパス -> c:¥mbase¥mail

- ・ 60 -> タイムアウト値 (1~1800 単位: 秒)
 - ・ 1 -> 転送プロセスの起動数(1~256)
 - ・ -C: 暗号化通信によるメール転送を行う場合に指定
- * マルチサーバー構成で転送受信サーバへ転送する場合はポート番号を”5577”に指定して下さい。

* 暗号化通信によるメール転送を行う場合は以下のオプションを指定します。

-c: 暗号化通信によるメール転送を行います。

例) C:¥mbase¥mbtransc.exe 192.168.1.xxx 5555 c:¥mbase¥mail 60 -c

-C: 暗号化通信によるメール転送を行い、転送先が暗号化通信に対応していない場合、非暗号化通信へ自動的に切り替えてメールを転送します。

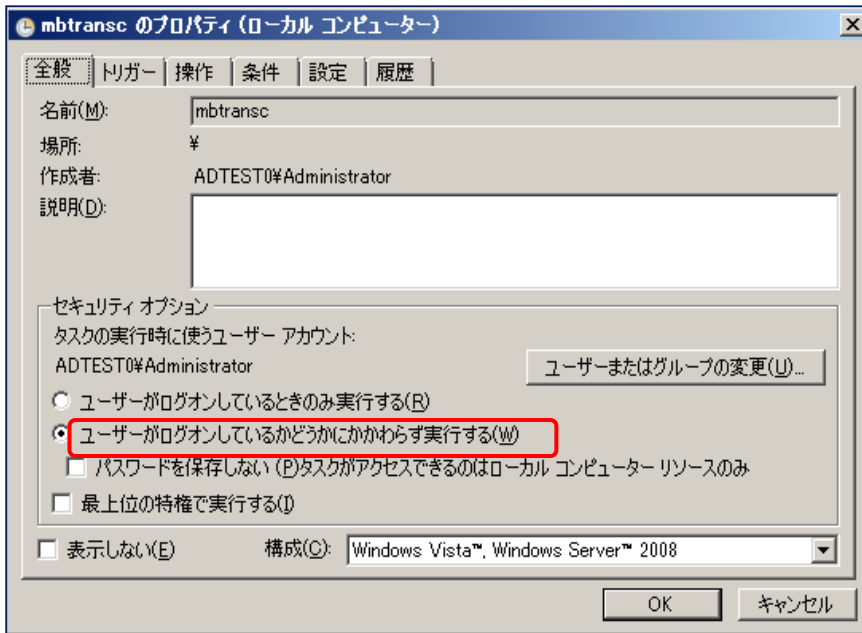
例) C:¥mbase¥mbtransc.exe 192.168.1.xxx 5555 c:¥mbase¥mail 60 -C

オプションの指定をしない場合は、非暗号化通信によるメール転送を行います。

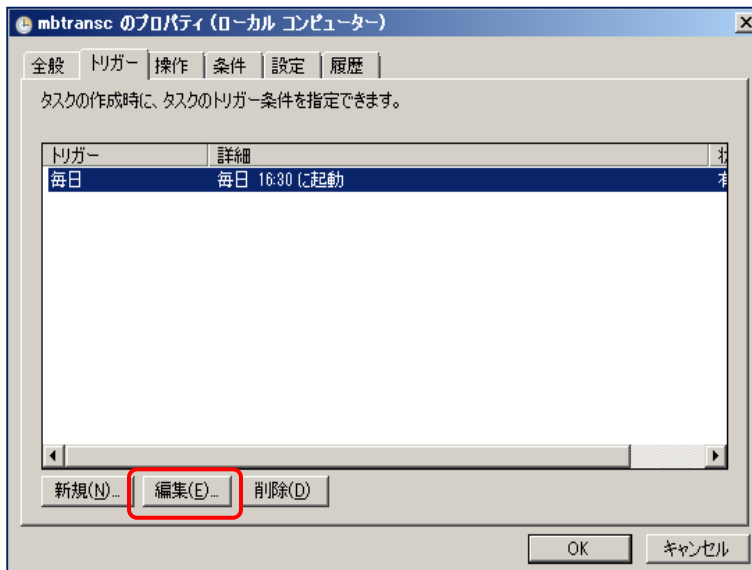
暗号化通信によるメール転送を行う場合、MailBase が MailBaseV5SP3 の hotfix_mbv5sp3_180507.tzg 適用以降で、且つ転送受信モジュールの暗号化設定が有効となっている必要があります。

* デバッグログを出力する場合、ログファイルのパスとして「c:¥mbase¥mbtransc.log」のようにフルパスでログファイルを引数に指定して下さい。

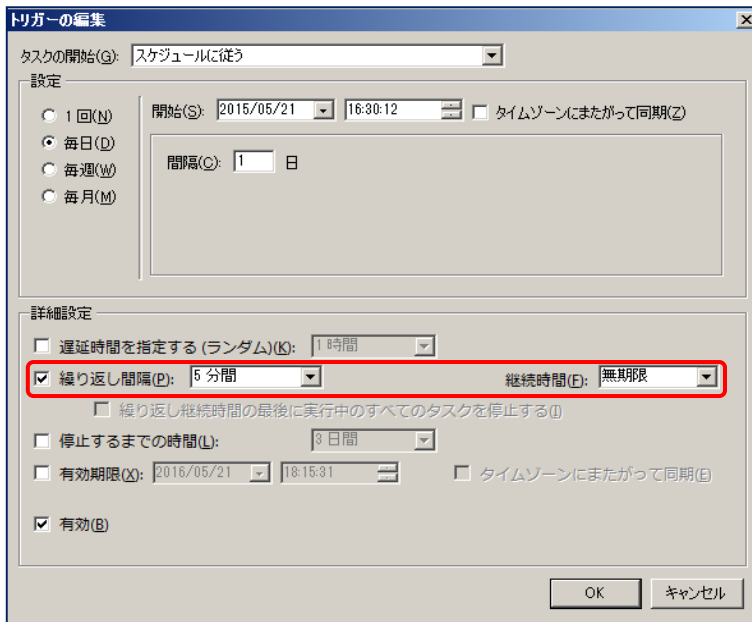
3. 「全般」タブの「ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する」を選択します。
「パスワードを保存しない」を選択した場合、サーバー再起動時に実行できない可能性があります。



4. 「トリガー」タブの [編集] をクリックします。

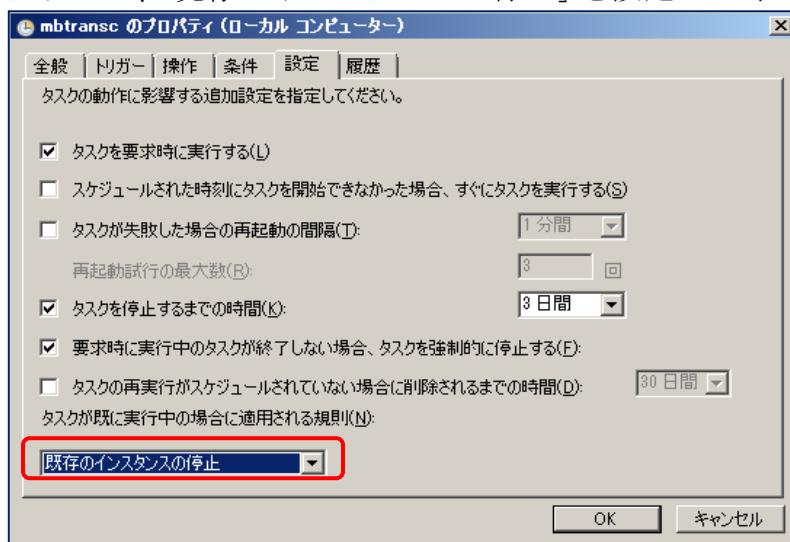


5. タスクを繰り返し実行のチェックボックスをチェックし、間隔を設定します。継続時間を無期限に設定します。



繰り返し実行間隔はご使用の環境に合わせて設定して下さい。
ジャーナルサーバからメールデータが出力される間隔は最短 5 分
ですので、タスクの繰り返し実行の間隔は最短 5 分に設定するこ
とをお勧めします。

6. 「設定」タブの[タスクが既に実行中の場合に適用される規則]
において、「既存のインスタンスの停止」を設定してください。



6.

3. 認証設定

Notes をご利用の場合、POP3 認証または LDAP 認証によりユーザー認証を行うことができます。推奨する認証方式は、Domino の LDAP 認証です。

3-1. POP3 認証

認証方式の設定方法につきましては

・「MailBase マニュアル【導入設定・システム管理】4-6-3.認証方式設定」を参照下さい。

3-2. LDAP 認証

3-2-1. Domino の設定

Domino の LDAP を使用する場合、以下の項目について確認して下さい。

- ・ LDAP サービスが有効になっていること
- ・ データベースとテンプレートへの匿名アクセスが許可されていること
- ・ バインドの DN 要求=> “はい” に設定されていること
- ・ ユーザーのインターネットメールアドレスが設定されていること
- ・ ユーザーのインターネットパスワードが設定されていること

3-2-2. LDAP 認証

認証方式の設定方法につきましては

・「MailBase マニュアル【導入設定・システム管理】4-6-3.認証方式設定」を参照下さい。

MailBase マニュアル_NotesOption

発行年月日

平成 28 年 02 月 15 日 第 4 版

平成 28 年 12 月 13 日 第 5 版

平成 29 年 07 月 31 日 第 6 版

平成 30 年 11 月 22 日 第 7 版

平成 31 年 12 月 27 日 第 8 版

令和元年 9 月 24 日 第 9 版

編集・著作

サイバーソリューションズ株式会社

東京都港区三田 3-13-16 三田 43MT ビル

<https://www.cybersolutions.co.jp/>

本マニュアルの無断複製・配布・改変を禁じます。本書に記載される情報は予告なく変更されることがあります。

Copyright © 2019 Cyber Solutions, Inc. All rights reserved.